



みどりの風

平成29年11月2日発行
校報 第546号
〔みどりの風 第89号〕
練馬区立関町北小学校

リニューアル学芸会

- 夢と感動の舞台を皆様へ -

校長 大野 泰弘

昨日、11月1日は本校の第59回目の開校記念日でした。先日、東京オリンピックの開会式まで1000日を切った、という報道がされていましたが、2年後の平成31年度には、本校の開校60周年の記念行事が行われる予定です。今年の開校記念日を期して、その準備をいよいよ始めていくことになります。人生に例えれば還暦のお祝いということになりますが、60周年の諸活動が子どもたちや地域の皆様にとって、現在と未来をつなぐ、人の心の絆を深める、そのような思い出深いものになるように考えています。

さて、そのことを直接意図してきたわけではありませんが、今月22日(水)と23日(木)の2日間、これまで行ってきた「学習発表会」をリニューアルし、ご案内のように、新たな形で「学芸会」を実施することにいたしました。

私が本校に着任した平成23年度から、今回に至る経緯を紹介しますと、次のようになります。

○平成23年度から、1・3・5学年は音楽的な要素のほかに国語的な内容も取り入れることとし、また、2・4・6学年は既成の脚本をもとにした「演劇」をすることも可能としました。(それまでは、演劇よりも総合的な学習の時間における学習成果の発表を重視して行われていました。)

○平成26年度から、児童数が減少してきたことを受け、発表内容は変更せずに、鑑賞方法を1・3・5学年と2・4・6学年の鑑賞日という形から、児童鑑賞日と保護者鑑賞日に分けるようにして、保護者・地域の皆様に全学年の舞台を鑑賞していただけるように変更しました。

○平成28年度から、前年度までの「学習発表会を2年続けて実施し、その翌年度に展覧会を行う」という形式から、「平成28年度は展覧会と新規に音楽会を実施し、学習発表会における音楽的な発表を音楽会に移行したので、学習発表会を学芸会に改め、すべての学年で演劇を行う。そして、展覧会と音楽会を実施する年度と学芸会を実施する年度を隔年とする」という形式に改めました。

今年の2月には第1回の音楽会(「関北森の音楽会」)を実施しましたが、今月の学芸会は、以上の経緯のもとで行われる第1回目の学芸会となります。

学芸会でも演目中に音楽が含まれることはありますが、なぜ全ての学年で演劇かと申せば、その根底には、「演劇という表現活動の効果を子どもたちの人間形成に生かしていくことが大切ではないか」という考えがあります。平成24年度11月の学習発表会に向けての学校だよりに次の文面を記載しました。

演劇には「人間」が(動物として書かれていても)登場します。その「人間」は、舞台の上で、困難にぶつかり、悩み、苦しみ、やがてそれを乗り越えていきます。ある凝縮された「人生」(の一部)を生きるということです。児童は、自分とは違うその「人間」を舞台の上で演じることで、自分を客観視し、いつもの自分を変えようとする力を身に付けていくことになります。劇を見る児童も、舞台の上の「人間」に共感し同化することができたとき、演じる者と同じように、普段の自分を変えようとする力を身に付けていきます。感動のある舞台は、舞台上の子どもも、観客の子どもも高めることができるのです。(劇団「創芸」の資料より)

これからの子どもたちには、時代を生き抜くための「思考力・判断力・表現力」が求められますが、一つの劇を全員の力を結集し創り上げていく過程において、自らを高めるだけでなく、様々な困難を乗り越えていくための思考力や判断力、そして、新しい自己を発見し、演じていくことで、表現する楽しさなどを感じ取っていくことができると思います。それが、演じる側の達成感になり、観る側の感動となって、素晴らしい時間と空間を共有することにつながると思います。

ぜひ、保護者、地域の皆様には、リニューアルされた学芸会に一所懸命取り組む本校の子どもたちのすばらしさやよさに対して、温かい励ましのお気持ち、お言葉を送ってくださいますよう、お願い申し上げます。「劇団：関北」の舞台をどうぞ楽しみに。